

平成23年11月1日

英語を学習する上で大切なこと

* 苦勞せず英語がマスターできたらいいですが、簡単なことではありません。

語学と言うのは時間と努力があればマスターできる、と言われます。しかし、ただがむしゃらにやるだけでは時間の無駄です。いかに、限られた時間の中で能率的・効率的にやるかが大事なことです。基本的には、自分なりのやっていけそうな方法を試みて、自分の学習スタイルを確立していけばよいと思います。

1. 現在の学習法を再考してみる。

現在の自分の学習方法について、次のどれに当てはまるか考えて見て下さい。

- ① 英語の予習は単語の意味を調べるだけである。
- ② 予習する時に和訳や英作文は難しいとすぐにあきらめて、授業で正解を確認する。
- ③ 英語を読む時は構造をあまり意識せず、フィーリングで何とか理解している。
- ④ 英語の勉強は試験前に懸命にやるだけである。
- ⑤ 課題はただ提出するためにやっている。
- ⑥ 課題や問題集などでわからない問題は直ぐに答えを見てしまう。
- ⑦ 音読練習はほとんどしないし、読めなくても気にしない。

もし、このような学習が当てはまるならば、それは何時間やっても、やらないよりはいい、と言うだけで英語の実力を高めるのにほとんど役立ちません。英語がだんだんと面白くなくなり、だんだんとやらなくなってしまうことは目に見えています。英語の勉強は人のためにするのではなく自分のためにするものです。部活動でも顧問の言うことをただこなしているだけでは強くなりません。選手個々が、「自分は強くなりた、上手くなりたい。」と思い練習することによって、効果的な練習方法が生まれ、チームは強くなっていきます。ただ、どんなに努力しても、必ず勝てる保証はありません。どんなに勉強しても必ず受かる保証もありません。ただ、練習しないでは、勉強しないでは勝てること、受かることは絶対ありません。

2. 学年別対策

- | | |
|----|---|
| 1年 | 1. 単語量・熟語量の取り入れ（教科書、辞書、単語集等の活用）
2. 文法事項の学習（教科書、文法参考書等の活用）
3. 初級英文読解能力の育成（教科書、副読本等の活用） |
| 2年 | 1. 単語量・熟語量の拡大（教科書、辞書、単語集等の活用）
2. 文法事項の定着（教科書、文法参考書、構文問題集等の活用）
3. 中級英文読解能力の習得・多読の習慣（教科書、副読本等の活用） |
| 3年 | 1. 単語量・熟語量の増大（教科書、辞書、単語集、問題集等の活用）
2. 文法事項の確認（教科書、文法参考書、構文問題集等の活用）
3. 精読・速読・多読の実践（教科書、問題集等の活用）
4. 入試問題の研究（問題集、赤本等の活用） |

3. 文構造の把握をしっかりと

英文を読むためには英文の構造を把握する力が必要です。英文の構造を把握するためには文法の知識が必要です。重箱の隅をつつくような勉強は不要ですが、英語上達のためには欠かせないものです。

部活でたとえるなら、基本練習が文法です。それだけの練習は退屈してしまいますが、基本練習がなければ、上達ありませんし試合にもなりません。

1年生の内に、基本的な文法事項をしっかり理解し、英文の構造をきちんと把握する読み方を学んで下さい。慣れてくると、英文の構造は無意識に把握できるようになります。後は、できるだけ英文を読んで語彙力を増やして下さい。

4. 語彙力を増やすには

「英語は単語だ。」と言う人がいます。しかし、単語を覚えることが英語の勉強ではありません。3年の追い込み時期なら単語だけ覚えても多少の効果はあるかもしれませんが、できるだけ沢山の英文を読んで、その中で出会った語句を覚えて下さい。大切なことは予習や課題をこなすだけでなく、自分から積極的に色々な英文を読んでみようという気持ちを持つことです。

何かについて（自分の将来、原子力等）自分の意見を辞書を使いながら英語で書いて、添削してもらうのも語彙力アップと作文力向上に大変有効です。

5. 音読の重要性

言語の習得に音読は不可欠です。黙読でも結構です。自分で発音できない単語は聞いても分かりません。いつも英語を声に出す習慣がなければ、英語で話そうと思っても話せません。センター試験もリスニングが課せられます。CDなどを利用して聞きとる習慣も付けておいて下さい。ゆっくりした速さから、自然な速さに対応できる力をつけて下さい。

6. センター試験

センター試験は一般的な問題が出題されますが、単語の難易度は（英語Ⅰ・Ⅱ）までですが、問題良が膨大で80分の時間内に終了するにはかなり速い処理能力が要求されます。文系希望者は70%、理系希望者は65%以上の得点力が要求されます。200点満点。

○項目別対策

- 3大原則
- 1 基礎力～応用力の充実
 - 2 スピードのある読解力の強化
 - 3 形式・時間配分の慣れ

発音 ① 日頃より意識して読む習慣。口で覚える。

アクセント ② 品詞でアクセントの違うものを覚える。
③ 練習問題を多くこなす。

文法・語法 ① 文法書は1回だけで身に付くものではない。1冊がぼろぼろになるまで完璧に何度も反復。
② 文法書を後ろからやってみるのも一つの方法。
③ 練習問題を数多くこなし、自分の弱点を自覚し、補強する。

会話文 ① 場面、登場人物を頭の中で想像する。
② 会話特有の表現を覚える。This isspeaking. Don't mention it.
③ 会話の流れに速やかに乗る。Yes, No の使い方に注意。

整序問題 ① 番号でなく手で書いてみる。

- ② 思い込みをしないで、柔軟な頭で。
 - ③ 短い問題から解いていく。
- 長文問題
- ① 単語の意味は一つではない。思い込みをしないで文の流れの中で柔軟に考える。
 - ② 問題（ざっと）⇒読み⇒問題⇒読み・解答の手順で。
 - ③ パラグラフ単位で内容を把握して行く。
 - ④ 長文の中には必ず理解に苦しむ単語が存在する。文の流れの中で推測すること。
 - ⑤ 倒置、無生物主語、省略、挿入に惑わされないこと。
 - ⑥ 難解な文は文型（主語は？動詞は？）を考えてみることに。
 - ⑦ 「1日1題」を目標に日頃より長文・中文問題に挑戦。長文は単語・熟語・構文の宝庫でもある。文の中で覚えた単語はなかなか忘れない。
 - ⑧ 教科書は最良のバイブル。侮るなかれ！

7. 国公立2次試験

東大：1) 要約問題 2) 下線部和訳 3) 自由英作文 4) リスニング 5) 文法
6) 長文読解問題

東北大学：1) 長文読解問題 2) 長文読解問題 3) 長文読解問題 4) 和文英訳

北海道大学：1) 長文読解問題 2) 和文英訳 3) 長文読解問題 4) 長文読解問題
5) リスニング

群馬大学： 自分で調べて見て下さい。

高崎経済大学： 自分で調べて見て下さい。

群馬県立女子大： 自分で調べて見て下さい。

8. 私立大学

私立大学は受験生が多いためマーク式の問題が多い。上級大学は長文問題が主流であるが、下の大学に行くほど文法問題に比率が高くなる。

「百聞は一見に如かず」進路室に行き、赤本で調べてみよう。

8. 最後に

① 入試英語は2年間でほぼマスター

英語学習には特に決まった範囲はありません。本人がその気になれば、ほぼ2年間で文法、熟語、基本単語はほぼマスターできます。単語集、文法参考書等は1回の学習で覚えられるものではありません。何回も何回も反復して学習することです。そして、ある程度自信が出てきたら適当な問題集を探して実力を試してみして下さい。「わかる」から「できる」になることが大切です。

2年生までにある程度の英語がマスターできれば、残りの1年間は余裕を持って英語はもちろん他教科にも力を注ぐことができます。3年生になってから、直前になってからやり始めてもただ焦るのみです。

② 根気（継続）

「ローマは1日にしてならず。」いかに多くの情報が頭に入っても、それをいかに使えるか

が英語の実力になります。英語ができないと嘆く生徒は、果たして1冊の単語集、問題集、参考書等を最後まで終了したでしょうか。有機肥料のように、ゆっくりと効果が出てくるものです。毎日の地道な努力が大きな実を結びます。

③ 志望大学の問題研究

各大学の英語問題にはそれぞれ特徴があります。早稲田大学は発音、文法、長文。慶応大学は論文的な長文。上智大学は会話的な文を含む膨大は問題良。国公立大学2次試験は各大学それぞれです。学部によっても問題内容は異なります。文学部は文学作品から、経済学部は経済書から、工学部は科学論文から出題されることが多くなります。その分野に関する文献1冊は是非事前に読んでおいて下さい。

他教科の授業もおろそかにしてはいけません。全ての基本は授業です。授業をおろそかにする生徒は結局は満足のいく結果は得られないでしょう。ただ、上位の有名大学は高校の授業内容だけでは間に合わないことが多いので自分の対策をしっかりと考えて下さい。

④ 参考

早慶上智：早稲田・慶応・上智

MARCH：明治・青山・立教・中央・法政

CHARM：中央・法政・青山・立教・明治

JAL：上智・青山・立教

日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修

大東亜帝国：大東文化・東海・亜細亜・帝京・国士舘

関東上流江戸桜：関東学園・上武・流通経済・江戸川・桜美林

関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館

東京6大学：東京・早稲田・慶応・明治・法政・立教